

イメージ表現

アクリルガッシュの特色を生かした描写の進め方

第3回実技講習会

9月の実技講習会「イメージ表現」では、アクリルガッシュの特色とその使い方を説明し、特色を生かした制作方法について説明しました。時間内に完成できればどんな方法でも構いませんが、前回の方法についてもう一度復習しておきましょう。

◆ポスターカラーと同じ不透明水彩絵の具ですが、ポスターカラーと違って一度乾燥したら水には溶けません、乾燥してからなら塗り重ねても下の色が溶け出すことはありません。また、乾燥が早いのも特色です。



◆塗り残しなく早く仕上げる方法の一つとして先に背景など、大きな色の面をざっくり塗ってしまいます。



◆最初に大きな面を塗る場合は下絵は隠れてしまうので細かく書き込みません。必要に応じて塗った後から鉛筆で描き起こしましょう。

◆下地や背景が乾いてから次の部分を塗り重ねて行きます。少し濃いめの絵の具を使えばいいでしょう。



◆塗り直したい場合も一度乾いてから上に色を重ねれば大丈夫です。



◆また、画面の中で何所かに同じ色を使う場合は、まとめてその部分を塗ってしまうと手間が省けますね。



イメージ表現

■アクリルガッシュの特色を生かした描写の進め方

◆基本は大きな部分から塗り進め、細かな部分を描き込んで行きます。また、イメージのポイントとなる部分はかならず仕上げるようにしましょう。

◆出来上りました。



■アクリル絵の具を使う上での注意

◆すぐにフタをする

アクリル絵の具はすぐ固まります。
キャップはすぐにキチンとしめよう。

◆パレットには注意

プラスチックのパレットに
絵の具が固まるとなかなか落ちません。
ラップを巻いてもいいですが、
とても不安定です。
ペーパーパレットのような
アクリルに向いたパレットで。



◆絵の具は使い切る量を

必要な量を出して使い切りましょう。
透明水彩絵の具のように固まってから
水で溶かすことはできません。

◆筆をよく洗う、放置しない

絵の具をつけたままにしておくと
固まってしまいます。
使い終わったら必ず筆洗へ。

「イメージ表現」

実技講習会

次の言葉とモチーフからイメージすることをアクリルガッシュを使って画面に表現してください。
なお、モチーフは画面の中に入れてください。モチーフの色や大きさ、数などは自由です。

言葉:「道」 モチーフ:「紙テープ」

画用紙：B4画用紙 横位置 全面

塗り残すことなく描いてください。
画用紙の白い部分は残さないようにしましょう。
モチーフの紙テープは画面内に入れること。

使用絵の具：アクリルガッシュで。持つて来ていない人には貸し出します。
(適性検査はアクリルガッシュの12色または18色セットです。)

配布されたA4サイズの画用紙は下書きや表現の試し用として使って構いません。

★講習終了後の講評会で、希望すればできあがった作品の講評を受けることができます。

紙テープ×道

紙テープ、いろんな角度から見てみよう。
ほどいてみたり、切ったりちぎったり、
つないだりしてもOK。

「道」から何が思い浮かぶだろう？

